

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・甲殻類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

## (9) クモ目

クモ目は、日本で約 1,500 種が生息し、埼玉県からはこれまでに 45 科 416 種が記録されている。このうち、外来種 1 種を除いた在来種 415 種について生息状況などを調査した結果、その 5% に当たる 21 種をレッドリスト掲載種とした。

これまでのクモ目の掲載種の変遷を見ると、初版 22 種、改訂版 19 種、前版 21 種、そして今回の 21 種と数の上ではそれほどの変化は見られないが、これは個体数の増減を判断するデータに乏しくリストアップする種数を増やすことに対して慎重にならざるを得なかったのが理由であり、埼玉県のクモ類を取り巻く環境が悪化していないということでは決してない。

クモ類の生息に対する脅威として最も大きな要因は、1. 生息環境の破壊、および改変、2. 地球温暖化による気温の上昇である。

要因 1 の具体的な例としては、地中性のクモであるカネコトタテグモ（カネコトタテグモ科）の既知生息地である秩父市橋立鍾乳洞は、観光地化による環境改変のため生息を確認できなかった。本種の営巣場所となる丘陵帯から低山帯の崖地は、災害対策による公共工事や開発などで改変されやすく、生息地が減少しつつある（環境省, 2014e）ため、今回は NT1 から VU にレッドランクを上げた。ランクは前回と変わらない EN だが、丘陵帯から低山帯の良好な草原に生息するアシナガカニグモ（カニグモ科）も、生育に好適な草原が急速に失われる今日において危機的状况にあると思われる。

要因 2 によるものと推定しているレッドリスト種として、北方系種であるキヌキリグモ（サラグモ科）があげられる。本種は、1969 年には低山帯の秩父市黒谷にも生息していたが（新海・八木沼, 1972）、近年では県内での生息を確認できずにいる。また、神奈川県で唯一の生息地とされる丹沢山地の山梨県境でも 1997 年以降確認されていない（神奈川県, 2006）ことなども併せて考えると、生息環境の温度条件の変動による生息適地の縮小が懸念されるため、今回は山地帯、亜高山帯でもレッドランクを NT2 から EN とした。

同じ北方系種でも、アカオニグモ（コガネグモ科）については、今回のレッドリストで絶滅と判断した。本種は、本州では標高 1,000m 以上の高原や湿原に生息する造網性クモで、県内では旧大滝村（現秩父市）上中尾（原・新海, 1975；大河内・川端, 1978）が唯一の記録地である。元々前述のような環境適地が本県にはほとんど見られないことや、記録地が標高 1,000m 以下の谷間の山村であったことなどから考えると、旧大滝村上中尾の記録は偶産の可能性も否定できない。寒冷地を好む本種が、かつては県内のごく限られた高標高地の草原に遺存的に生息していたとしても、それは極めて脆弱な生息基盤の上になりたっていた個体群と考えられ、近年の地球温暖化の影響などですでに消滅した可能性が高い。

一方、確認例数の増加にともない VU から NT1 にレッドランクを下げたのが、コガネグモ（コガネグモ科）である。本種は大型の造網性クモ類であり、水田付近や河川沿いなど水辺の草地に生息する。記録が増加した理由は定かではないが、生息適地となる草地環境の減少や餌昆虫の減

少が悪影響を及ぼすと考えられており（千葉県，2011；東京都，2013）、本種の生息地では除草や継続的農薬散布などによる過度の人為的攪乱や、管理放棄による草地の荒廃といった環境変化を最小限に抑える配慮が重要である。

なお、魚類や昆虫類などに比べて愛好者の少ないクモ類では、意図的な持ち込みや放虫はこれまでのところ認められないが、世間を騒がせた外来種セアカゴケグモ（清水，2014）に見られるように、物流により意図しない随伴移入が起きている。

前版まではレッドリスト掲載種であった地中性のキシノウエトタテグモ（トタテグモ科）は、植栽土による随伴移入により本来生息するはずのない埋立地や団地の植込みなどで確認されている（不詳，2016）。本種は、元々本県では記録例数が少なく、生息確認地は公園や人家の庭など人為環境周辺が多い（笹岡，1994；畑守ほか，1997；南部，2009；平松，2009）。団地や新設された公園など明らかに移入が疑われる事例を除き、自然分布か人為分布かを判断するのは現時点では困難である。したがって、今回はレッドリストから外した。

[付記] 次ページ以降の種ごとの解説において、形態や国内分布に関する項目は、新海（2006）、小野（2009）および環境省（2014e）を参照した。

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・  
円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

科名	コガネグモ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>アカオニグモ</b>	指定状況			
〔学名〕	<i>Araneus pinguis</i> (Karsch)				
【形態】	体長 メス 15～22mm、オス 9～12mm。成熟メスは腹部背面が赤色で白色斑を生じ、オスは黄色。美麗種。				
【国内分布】	北海道、本州、九州（北海道以外は標高 1,000 m 以上）				
【主な生息環境】	北海道では、市街地の公園、草原、湿原、湖沼の周囲、林道、河川沿いに広く分布する。本州では 1,000 m 以上の高原、または湿原に生息するが、個体数は極めて少ない。草間や低木の間に垂直円網を張り、網の一端に葉を集めた簡単な住居を作り潜む。				
【県内での生息状況】	旧大滝村（現秩父市）上中尾での採集記録が唯一である（新海・原, 1975; 大河内・川端, 1978）。前記生息地は標高 1,000 m 未満であり、当時の秩父大滝地区が現在より寒冷であったことを考慮してもバルーニング等による偶産の可能性がある。本種は前項に記述したように、本州では山地の草原、湿原に生息するが、本県には該当する環境に乏しい。地球温暖化による温度上昇の影響もふまえ絶滅したと考えられる。				
【特記事項】	幼体の腹部は黄色で、オスは成体になっても腹部が黄色のまま、メスは成体になって成熟するまで黄色である。近隣都県の RDB では、群馬：DD、長野：NT。				

科名	サラグモ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>キヌキリグモ</b>	指定状況			
〔学名〕	<i>Herbiphantes cericeus</i> (S. Saito)				
【形態】	体長 雌雄とも 3.5～5.0mm。美麗種。				
【国内分布】	北海道、本州（山地）、四国（山地）				
【主な生息環境】	北海道はほぼ全域、本州以西は 600 m 以上の山地から亜高山帯にかけて生息。クマザサ、下草の間、樹木の葉裏などに 10～20cm のシート網を張る。				
【県内での生息状況】	県内の記録は、1969～1971 年にかけて秩父市黒谷、同熊倉山（旧荒川村）、甲武信ヶ岳、雁坂峠・川又（旧大滝村）で記録がある（八木沼・新海, 1973）。				
【特記事項】	神奈川県では丹沢山地の山梨県境にのみ生息するが、1997 年を最後に確認されていない。近県ランク 神奈川：注目種				

科名	カニグモ科	埼玉県(2018)	EN	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>アシナガカニグモ</b>	指定状況			
〔学名〕	<i>Heriaeus mellotiei</i> Simon				
【形態】	体長 メス 6.0～7.6mm、オス 4.5～4.9mm。頭胸部は黄緑、腹部は淡緑色で全体に白毛を密生。				
【国内分布】	本州、四国、九州。分布は局所的である。				
【主な生息環境】	里山～山地に生息。草原や樹林地周辺の草間に見られる。葉上、茎、花の上などで第 1、2 脚を広げて獲物を待ち伏せる。				
【県内での生息状況】	飯能市、長瀨町（大河内・川端, 1978）の各 1 例のみで、近年の記録はない。草原環境に依存するため、開発による生息適地の草原の喪失に伴い危機的な状況にあると思われる。				
【特記事項】	カニグモ科としては大型種でありながら、生態的知見に乏しい。近県ランク 東京（本土部）：NT。				

科名	カネコトタテグモ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	NT
〔和名〕	<b>カネコトタテグモ</b>	指定状況			
〔学名〕	<i>Antrodiaetus roretzii</i> (L. Koch)	-			
【形態】	体長 メス 12～15mm、オス 10～13mm。オスはメスより若干小さい。				
【国内分布】	本州（岩手県から兵庫県の間）				
【主な生息環境】	山地の崖、樹林地の傾斜地や林床に生息。両開きの扉が付いた深さ 15～20cmの住居を地中に作る。				
【県内での生息状況】	秩父市橋立鍾乳洞で1例（新海・原, 1975, 大河内・川端, 1978）、飯能市天覧山で2例（植村, 1938; 平松, 2000）記録があるのみである。1999年2月21日飯能市天覧山で幼体が記録されて以来本県での記録はない。2015年の調査では、上記2ヶ所の既知産地において生息を確認できなかった。特に橋立鍾乳洞は観光地化により環境が悪化しており、生息の可能性は低い。森林伐採や林道改修工事等が生息上の脅威となる（環境省, 2014e）。				
【特記事項】	近県ランク 東京：NT、千葉：CR、群馬：NT、茨城：NT、長野：CR+EN。				

科名	コガネグモ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>トゲグモ</b>	指定状況			
〔学名〕	<i>Gasteracantha kuhli</i> C. L. Koch	-			
【形態】	体長 メス 6～8mm、オス 3～4mm。メスの腹部背面には3対の棘がある。オスは小型で腹部が馬蹄形。				
【国内分布】	本州（岩手以西）、四国、九州				
【主な生息環境】	里山から山地に生息する。風通しの良いスギ林やその周囲、林道、溪流沿いの樹間の比較的高い位置に垂直円網を張る。網のワク糸に数cm間隔で白い糸くず状のものを付ける。極端な集中分布を示す。				
【県内での生息状況】	丘陵帯から山地に生息するが、丘陵帯では、かつて記録された日高市（平松・笠原, 2000）や飯能市（平松, 1998）では近年確認されていない。低山帯から山地帯の湿った林内に生息するが、分布は局地的かつ集中的である。				
【特記事項】	近県ランク 東京：DD、群馬：DD。				

科名	ジグモ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2014)	NT
〔和名〕	<b>ワスレナグモ</b>	指定状況			
〔学名〕	<i>Calommata signata</i> Karsch	-			
【形態】	体長 メス 15～20mm、オス 5～8mm。オスはメスよりかなり小型で細く、黒褐色のため別種に見える。				
【国内分布】	本州（東北、中部以西）、四国、九州				
【主な生息環境】	畑、草地、芝生、植込みの縁などの地面に深さ 10～30cmの穴を掘って中に潜む。入り口に扉は付けない。穴の内側は大量の糸で裏打ちされている。糸で巣穴をふさぐことがある。				
【県内での生息状況】	上尾市、毛呂山町、秩父市、川越市、北本市、さいたま市、日高市で記録があるが、分布は局所的である。				
【特記事項】	近県ランク 東京：NT、千葉：CR、神奈川：VU、茨城：NT、栃木：NT、長野：CR+EN。				

科名	トタテグモ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2014)	NT
〔和名〕	<b>キノボリトタテグモ</b>	指定状況			
〔学名〕	<i>Canothele fragaria</i> (Dönitz)	-			
【形態】	体長 メス 10～12mm、オス 8～10mm。第3歩脚脛節背面の窪みが特徴。				
【国内分布】	本州（関東、中部以西）、四国、九州、南西諸島				
【主な生息環境】	寺社、古い公園、林道などにある大木の樹幹、日当たりの悪い石垣、岸壁の窪み等に生息。片開きの扉が付いた細長い袋状住居を作り、住居と扉に樹皮、苔、土などを付けて偽装する。				
【県内での生息状況】	秩父市、飯能市、日高市、鳩山町、皆野町、入間市、小川町で記録があるが、例数は少ない。大木の伐採、乾燥化が生息上の脅威。				
【特記事項】	近県ランク 東京：VU、千葉：EN、茨城：NT、栃木：NT、群馬：NT。				

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・甲殻類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

科名	アシナガダマシ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>タニマノドヨウグモ</b>				
〔学名〕	<i>Metleucauge kompirensis</i> (Bösenberg & Strand)	指定状況			-
【形態】	体長 メス 10.0 ~ 14.0mm、オス 7.5 ~ 12.0mm。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	里山から山地に生息。溪流沿いの樹間、草間、岩や石の間に水平円網を張る。成体になると、溪流の両岸の樹木間、樹木から水面に出ている岩石の間に大型の水平円網を張り渡す。日中は網の一端が付着する樹木の枝や葉裏に脚を伸ばして静止する。				
【県内での生息状況】	台地・丘陵帯から山地帯までの溪流に見られるが、分布は局所的である。				
【特記事項】	溪流上の樹冠が鬱閉して水面に日が当たらない環境では本種は生息せず、近縁種メガネドヨウグモ <i>M. yunohamensis</i> が生息していることが多い。				

科名	コガネグモ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>コガネグモ</b>				
〔学名〕	<i>Argiope amoena</i> L. Koch	指定状況			-
【形態】	体長 メス 20 ~ 30mm、オス 5 ~ 7mm。メスは大型美麗種、一方、オスは褐色でメスよりかなり小さい。				
【国内分布】	本州、四国、九州、南西諸島				
【主な生息環境】	郊外の人家周辺、樹林地周辺、水田、河原、草原などの日当たりのよい樹間、草間に直径 50cm ~ 1 m の垂直円網を張る。				
【県内での生息状況】	低地帯から台地・丘陵帯に生息する。				
【特記事項】	発見例は少なくないが、ブルーニングによる飛来等でその年限りの生息確認地も多く、安定した生息地自体は少ない。近県ランク 東京：NT、神奈川：要注意種、千葉：VU、茨城：NT、群馬：DD。				

科名	コガネグモ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>トリノフンダマシ</b>				
〔学名〕	<i>Cyrtarachne bufo</i> (Bösenberg & Strand)	指定状況			-
【形態】	体長 メス 8.0 ~ 10.0mm、オス 1.0 ~ 2.5mm。				
【国内分布】	本州、四国、九州				
【主な生息環境】	里山・山地に生息。樹林地やその周辺の草原、林道の樹木、草本の葉裏に多い。日中は葉裏に静止し、夜間に同心円状円網を張る。				
【県内での生息状況】	低地帯から低山帯にかけて生息するが、その分布は局所的である。				
【特記事項】	トリノフンダマシ類は、網のヨコ糸に付着する粘球の粘性が湿度に依存する (BABA <i>et al.</i> , 2014) ため、乾燥は生息上の脅威となる。				

科名	コガネグモ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>オオトリノフンダマシ</b>				
〔学名〕	<i>Cyrtarachne akirai</i> Tanikawa	指定状況			-
【形態】	体長 メス 10.0 ~ 13.0mm、オス 2.0 ~ 2.5mm。				
【国内分布】	本州、四国、九州、南西諸島				
【主な生息環境】	平地から山地に生息。クワ、クリ、果樹園、草原、河原、樹林地、林道などの樹木、草本の葉裏に静止、夜間に同心円状円網を張る。				
【県内での生息状況】	低地帯から山地帯にかけて生息するが、分布は局所的である。				
【特記事項】	従来 <i>C. inaequalis</i> という種に同定されていたが、TANIKAWA (2013) により新種記載された。				

科名	コガネグモ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2014)	-
(和名)	<b>シロオビトリノフンダマシ</b>				
(学名)	<i>Cyrtarachne nagasakiensis</i> Strand	指定状況	-		
【形態】	体長 メス 5.0～8.0mm、オス 1.0～2.0mm。メスには黒色型等の色彩変異が知られる。				
【国内分布】	本州、四国、九州、南西諸島				
【主な生息環境】	里山～山地に生息。日中はススキ原や草原、樹林地周辺、林道の樹木や草本の葉裏に静止し、夜間に造網する。				
【県内での生息状況】	低地帯（大宮台地）から低山帯にかけて生息するが、その分布は局所的である。				
【特記事項】	黒色型はかつてクロトリノフンダマシという名の別種として扱われていた。				

科名	コガネグモ科	埼玉県(2018)	NT1	環境省(2014)	-
(和名)	<b>アカイロトリノフンダマシ</b>				
(学名)	<i>Cyrtarachne yunoharuensis</i> Strand	指定状況	-		
【形態】	体長 メス 4.5～7.0mm、オス 1.5～2.0mm。メスは美しく、ソメワケ型等の変異がある。				
【国内分布】	本州（茨城以西）、四国、九州、南西諸島				
【主な生息環境】	里山～山地に生息。日中は草原や樹林地周辺、林道の樹木や草本の葉裏に静止し、夜間に造網する。				
【県内での生息状況】	台地・丘陵帯から低山帯にかけて生息するが、その分布は局所的である。				
【特記事項】	ソメワケ型（黒地に赤色斑）はかつてソメワケトリノフンダマシという名の別種として扱われていた。				

科名	コガネグモ科	埼玉県(2018)	NT2	環境省(2014)	-
(和名)	<b>ヤマキレアミグモ</b>				
(学名)	<i>Parazygiella disper</i> (Kulczyński)	指定状況	-		
【形態】	体長 メス 4.5～6.5mm、オス 4.5～5.5mm。				
【国内分布】	北海道、本州（1,600 m以上の高山）				
【主な生息環境】	本州では1,600 m以上の高山に生息。山小屋、廃屋、神社の社殿、崖地、大木等に、キレ網（円網の一区画が欠けたもの）を張り、網の一端が付着する人工物、岩、樹木に袋状住居を作って潜む。				
【県内での生息状況】	秩父市の十文字峠のみで記録されている。				
【特記事項】	近県ランク 長野:NT。				

科名	ユウレイグモ科	埼玉県(2018)	DD	環境省(2014)	-
(和名)	<b>アケボノユウレイグモ</b>				
(学名)	<i>Belisana akebona</i> (Komatsu)	指定状況	-		
【形態】	体長 雌雄とも 2mm 前後の小型種。6眼のクモ。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	洞窟内の岩の隙間や窪み、溪流沿いの湿った崖地や岩の間の薄暗いところに不規則網を張る。				
【県内での生息状況】	県内では、秩父市（新海栄一, 1972; 原・新海, 1975; 大河内・川端, 1978; 新海・千田・宮下, 1999; 平松・初芝・河野, 2006）でのみ記録されている。橋立鍾乳洞の個体群は洞内の観光地化による攪乱や照明等が原因で絶滅したと思われる。				
【特記事項】	近県ランク 東京:NT。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物

哺乳類  
鳥類  
爬虫類  
両生類  
魚類・円口類  
昆虫類  
甲殻類  
多足類  
クモ目  
軟体動物  
扁形動物

科名 コモリグモ科  
 (和名) **スズキコモリグモ**  
 (学名) *Lycosa suzukii* Yaginuma  
 埼玉県(2018) DD 環境省(2014) -  
 指定状況 -

【形態】 体長 メス 15.2～20.0mm、オス 15.3mm。大型種。  
 【国内分布】 北海道、本州、九州  
 【主な生息環境】 草地、荒地、河原、樹林地周辺の地表、石や倒木の下、落葉上などに生息。  
 【県内での生息状況】 県内の記録は、長瀨町、鶴ヶ島市、熊谷市で各1例のみである。  
 【特記事項】 分布は局所的で、全国的に採集例は極めて少ない。近県ランク 東京:DD。

科名 コガネグモ科  
 (和名) **ニシキオニグモ**  
 (学名) *Araneus variegatus* Yaginuma  
 埼玉県(2018) DD 環境省(2014) -  
 指定状況 -

【形態】 体長 メス 12～18mm、オス 9～10mm。腹部背面の斑紋が独特。  
 【国内分布】 北海道、本州、九州  
 【主な生息環境】 山地に生息。社寺に多く見られ、建物の周囲、灯籠、鳥居の他、樹林地周辺、林道沿いの樹間等にも生息するが、分布は極めて局所的である。  
 【県内での生息状況】 秩父市(新海・原, 1975; 大河内・川端, 1978)、入間市(今井, 2004)で各1例のみ。  
 【特記事項】 退色した標本は、イエオニグモと類似するので、生殖器の確認が必要である。近県ランク 東京:DD、長野:NT、群馬:DD。

科名 コガネグモ科  
 (和名) **ムツトゲイセキグモ**  
 (学名) *Ordgarius sexspinosus* (Thorell)  
 埼玉県(2018) DD 環境省(2014) -  
 指定状況 -

【形態】 体長はメス7～10.5mm、オス2mm前後。背甲に6個の突起を持つ。オスはかなり小型で黒っぽい。  
 【国内分布】 本州、九州(福島から大分の間)  
 【主な生息環境】 市街地の公園から山地まで広く分布するが、採集例の少ない稀少種。クリや柑橘類などの果樹、クワ、ツバキなどの広葉樹に多い。日中は葉裏で静止し、夜間に第2脚先端から吊るした粘球を回転させ、近づいてくるガを捕食するナゲナワグモの仲間。  
 【県内での生息状況】 県内では台地・丘陵帯で記録があるが、分布は局所的である。  
 【特記事項】 近県ランク 東京:NT。

科名 コガネグモ科  
 (和名) **ゲホウグモ**  
 (学名) *Poltys illepidus* C. L. Koch  
 埼玉県(2018) DD 環境省(2014) -  
 指定状況 -

【形態】 体長 メス 12.0～16.0mm、オス 2.0～3.0mm。オスはメスよりかなり小さい。  
 【国内分布】 本州、四国、九州、南西諸島  
 【主な生息環境】 里山から山地の墓地、公園、河原、樹林地周辺、林道沿いなどの樹木に生息する。日中は樹枝や樹幹に脚を縮めて静止、夜間に非常に目の細かい(ヨコ糸間隔の狭い)垂直円網を張る。  
 【県内での生息状況】 荒川以西から台地・丘陵帯にかけて記録があるが、生息地は局所的である。  
 【特記事項】 日中脚を縮めて樹枝に静止していると、木の瘤に酷似しているため発見が困難。

科名	カニグモ科	埼玉県(2018)	DD	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>オビボソカニグモ</b>				
〔学名〕	<i>Xysticus trizonatus</i> Ono	指定状況			-
【形態】	体長 メス5～8mm、オス4～5mm。地味で外見の似通ったカニグモ属の中で唯一の美麗種。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州 日本固有種				
【主な生息環境】	平地から山地の社寺林、公園の林内、樹林地とその周辺、林道などの草間、枝葉間、樹皮上を徘徊する。				
【県内での生息状況】	滑川町（大河内・川端，1978）の1例のみで、近年の記録はない。				
【特記事項】	冬季に樹皮下から幼体が見出されることが多い。近県ランク 東京:DD。				

科名	アシナガグモ科	埼玉県(2018)	LP	環境省(2014)	-
〔和名〕	<b>サンロウドヨウグモ</b>				
〔学名〕	<i>Meta japonica</i> Tanikawa	指定状況			-
【形態】	体長 メス9.5～14mm、オス9.0～11mm。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	山地に生息し、洞窟に多いが、崩れた岩の隙間、岸壁の窪みや割れ目、樹洞の他山間部の人工構造物などからも見出される。基本的に水平円網を張るが、足場の関係で垂直に近いものもある。				
【県内での生息状況】	旧大滝村（現秩父市）の中津、川又で記録されている（大河内・川端，1978）。				
【特記事項】	多産地である仏石山鍾乳洞は2012年より入洞禁止、そこに至る林道も入林禁止となっている。近県ランク 東京:DD。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物